

1日2個法である鳥取県方式の全国実施を目指して!!

鳥取県成人病検診管理指導協議会大腸がん部会
鳥取県健康対策協議会大腸がん対策専門委員会

- 日 時 平成20年8月9日(土) 午後1時40分～午後3時
- 場 所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
- 出席者 23人
岡本健対協会長、古城部会長、宮崎委員長
秋藤・岡田・音田・金藤・木村・古志・田中・田村・吹野・
藤井・丸山・山本・吉田・吉中・米川各委員
県健康政策課：澤田副主幹
健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主事

挨拶(要旨)

〈岡本会長〉

鳥取県としては平成15年度より全国に先駆けて1日2個法を導入し、平成18年度より全市町村実施となりました。この暑さに対しまして、この1日2個法が一段と有効的に作用しているのではないかと考えています。今年から特定健診が始まったため、がん検診の開始時期が少し遅くなったと思いますが、これから段々と本格的に始まっていくと思いますので、どうかよろしくお願い致します。

〈古城部会長〉

本日は、平成19年度中間実績報告と平成20年度事業計画について協議して頂きます。受診率が頭打ちとなっておりますので、受診率向上対策、それから、精検受診率向上対策についても我々の努力が必要と考えています。その努力が、鳥取県方式である1日2個法を世の中に知らしめて、皆様に賛同される大きな要素になるのではと期待しております。

〈宮崎委員長〉

大腸がん検診の大きな目的は、死亡率減少効果

をもたらすことだと思います。罹患者数に対して検診で拾い上げる数が10分の1ぐらいと言われているので、受診率を50%以上に上げていかなければ死亡率を下げることは出来ません。

がん対策推進基本計画では、この5年以内に受診率50%以上を目指すということを謳っています。そうしないと、10年以内に死亡率減少効果20%は達成出来ません。また、精検受診率も相当上げないとその効果は現れません。

1日2個法である鳥取県の方式は受診率を上げるにはもってこいの検査方法ですので、市町村の保健師、関係者皆様のご努力で受診勧奨を強力にして頂きましたら、大腸がん検診については受診率50%以上が達成出来るのではと思っています。よろしく申し上げます。

報告事項

1. 平成19年度大腸がん検診の実績(中間報告)及び平成20年度計画について

〈鳥取県調べ〉：澤田県健康政策課がん生活習慣病担当副主幹

対象者数は175,367人で、このうち受診者数は51,773人で、受診率は29.5%であった。前年度に比べ受診率は0.1ポイント増加した。なお、平成

18年度から全市町村で1日2個法によるがん検診が実施されている。

このうち要精検者数は4,305人で、要精検率は8.3%で、精検受診者は2,853人、精検受診率66.3%であった。

精検結果は、大腸がん123人、大腸がん疑いのあるものが5人発見された。

がん発見率（がん／受診者数）は0.24%で、陽性反応適中度（がん／精検受診者数）は4.3%であった。

3月末での集計のため、10月末での最終実績においては、精検受診率、がん発見率はもう少し上がるものと思われる。

平成18年度の中部の要精検率は21.6%と非常に高かったが、平成19年度は15.9%に下がっており、岡本鳥取県医師会長より医療機関には改善して頂くよう指導して頂いた効果が出ていると思われる。

平成20年度実施計画は対象者数187,881人、平成19年度より約2,400人減の49,371人を予定している。鳥取市の受診者数が約3,000人減少となっているが、当初予算の計画人数を計上している。ただし、計画より受診者数が増加すれば、補正予算を行うこととしている。

対象者数は平成19年度より約12,000人増加見込みであるが、その大きな原因としては、倉吉市、湯梨浜町については国が示している対象者の算定方式を取り入れられた結果、対象者数が大幅に増加となっている。

〈財団法人鳥取県保健事業団調べ〉：丸山委員

（1）平成19年度実績

平成19年度実績は、平成20年7月31日現在で地域検診は20,660人が受診し、そのうち要精検者は1,271人で、要精検率6.44%、精検受診者数は931人で、精検受診率73.0%であった。精検結果は、大腸がんが46人発見され、大腸がん発見率は0.23%であった。陽性反応適中度は4.94%。

職域検診は7,715人が受診し、そのうち要精検者は537人で、要精検率7.00%、精検受診者数は249人で、精検受診率46.4%であった。精検結果は、大腸がんが7人発見され、大腸がん発見率は0.09%であった。陽性反応適中度は2.81%。

平成20年度から特定健診が始まり、市町村では特定健診とがん検診のセット検診を計画しているところが多いが、市町村国保以外の住民はがん検診だけを受診することになり、平成19年度に比べ受診者数が少ない傾向にあるようである。平成21年度に向けて受診勧奨に努めたい。

平成21年度の結果を踏まえて、健対協からも住民へ啓発並びに受診勧奨をしていきたい。

2. 平成20年度各地区大腸がん注腸読影委員会の実施状況について

〈東部一秋藤委員〉

3回読影を行い、4症例を読影した。読影の結果、要内視鏡検査4件であった。

〈中部〉

読影会は7月現在で1度も開催されていない。

〈西部一吹野委員〉

6回読影を行い、19症例を読影した。読影の結果、異常なし12件、要内視鏡検査4件、その他3件であった。

各地区とも、年々と読影件数が減少している。

3. 大腸がん検診精密検査医療機関及び大腸がん検診注腸X線検査医療機関登録更新及び追加登録：岩垣鳥取県医師会事務局係長

平成20年度の登録更新となり、平成19年度中に更新手続きを行った。8月現在で『大腸がん検診精密検査医療機関』73件、『大腸がん検診注腸X線検査医療機関』42件が登録されている。

協議事項

1. 大腸がん精密検査実地研修開催について

平成20年度の県委託事業「がん検診受診率向上対策事業」として、精密検査医療機関等の医師を対象に「大腸がん精密検査実地研修」を受けて頂き、検査技術を錬磨して精検受診率の向上をはかる。

1. 日時 平成20年10月18日（土）午後4時
2. 場所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町
電話（0857）27-5566
3. 対象 医師
4. 講師 福岡大学筑紫病院消化器科
准教授 津田純郎先生

2. 検診対象者の取り扱いについて

「がん検診事業の評価に関する委員会」は、「今後のわが国におけるがん検診事業評価の在り方」について平成20年3月に報告書を作成した。国が示した算出方法は以下のとおりである。

がん検診対象者数 = ① - ② + ③ - ④
(男女別 5歳刻みの各年齢群での対象者数の合計人数)
※子宮がん、乳がんについてはそれぞれ20歳以上、40歳以上の女性とする。

- ①40歳以上の市町村人口：総務省統計局【国勢調査報告】第1次資料（5歳刻み）
5年毎更新
- ②40歳以上の就業者数：総務省統計局【国勢調査報告】第2次基本資料（5歳刻み）
5年毎更新

- ③農林水産業従事者：総務省統計局【国勢調査報告】第2次基本資料 5年毎更新
(産業(大分類)、年齢(5歳階級)、男女別15歳以上就業者数及び平均年齢資料から第1次従事者数を算出)
- ④要介護4・5の認定者 介護給付実態調査
(5歳刻み)

平成19年度鳥取県市町村別胃がん検診実績を元に、国が示す上記の算定方式の対象者数と比較を行ったところ、市部についてはあまり差がなかったが、アンケート調査等により対象者を把握している町村の対象者数については、国が示す算定方式の対象者数の方が多くなり、受診率が下がってしまうということとなる。

現時点では、県としては、国が示している算出方式を導入するよう市町村には言えないが、国の算定方式を取り入れたいという市町村は進めて頂く。また、独自の算定方式で正確に対象者を把握している市町村については、現状のままで算定して頂く。鳥取県としては、もうしばらく状況を見ながら進めていきたいと考えている。

よって、鳥取県がどの方法が現状にあっているのか、今後、更に検討する必要がある。

3. その他

国への報告は平成19年度実績までは、年度末集計（平成20年3月末）を報告していたが、平成20年度実績からは、対象者、受診者数は年度末集計であるが、要精検者数等の最終結果については、翌年度をもって報告する方向に変わる予定である。

大腸がん検診従事者講習会及び大腸がん検診症例研究会

日時 平成20年8月9日（土）
午後4時～午後5時40分

場所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町

出席者 102名

（医師：100名、看護師・保健師：1名、
検査技師：1名）

吉中正人先生の司会により進行

講演

宮崎博実鳥取県健康対策協議会大腸がん対策専門委員会委員長の座長により、鳥取赤十字病院第

一内科部長 田中久雄先生による「苦痛のない大腸内視鏡検査をめざして」の講演があった。

症例検討

秋藤洋一先生の進行により、症例を報告して頂き、検討を行った。

1) 西部（1例）－米子医療センター

木村 修先生

2) 中部（1例）－鳥取県立厚生病院

藤瀬 幸先生

3) 東部（1例）－鳥取県立中央病院

清水辰宣先生

受診率の向上と肺がん疑いの取り扱いについて議論される

鳥取県成人病検診管理指導協議会肺がん部会
鳥取県健康対策協議会肺がん対策専門委員会

■ 日時 平成20年8月21日（木） 午後1時40分～午後3時40分

■ 場所 鳥取県健康会館 鳥取市戎町

■ 出席者 22人

岡本健対協会長、清水部会長、中村委員長

天野・石井・大久保・大城・工藤・陶山・谷口雄司・谷口玲子・

引田・吹野・藤井・宮崎・山下・山家・吉田真人各委員

県健康政策課：川本保健師

健対協事務局：谷口事務局長、岩垣係長、田中主事

挨拶（要旨）

〈岡本会長〉

最近、肺がん検診の要精検率が高くなっており、早期の肺がんがたくさん見つかっています。ただ、住民にとっては、チェック率が上がってきますと、不安となるので、清水部会長、中村委員長にお願

いしたいのは、県民に対し、要精検率が高くなっているが、早期の肺がんを多く見つけるためには、どうしても必要だということを周知して頂きたい。

また、私ども、開業医は患者さんから質問がある時は、CTによる精密検査を受けられるようにと説明しています。